

UCDAアワード2011報告会開く

生損保などから250人以上が出席



一般社団法人ユニバーサルコミュニケーションデザイン協会(福田泰弘理事長、以下UCDA)は6月24日、日本外国特派員協会(東京都千代田区)で「UCDAアワード2011報告会」を開催した。今年3月に行った、生保23社の「総合通知」「インターネットサービス」と損保9社の「自動車保険証券」の見やすさ・わかりやすさの評価結果を発表した。当初は4月に開催予定だったが、東日本大震災の影響で延期していた。当日は生損保各社や協賛企業などから250人以上が出席した。



福田理事長



内藤氏

報告会では、前金融庁総務企画局長の内藤純一氏が「契約者保護と金融行政」と題して講演した。ほか、評価・選考に当たった6人が「利用品質の確保とコスト削減」をテーマ

前金融庁総務企画局長

内藤純一氏が講演

井順國氏(政策研究大学院大学客員教授)が講評した。ま

マにパネルディスカッションを行った。

あいさつで福田理事長は、エントリーした生損保や協賛企業に感謝の意を伝えるとともに、「ユニバーサルな環境づくりこそ、企業イメージの向上に直結するものと確信している」と強調。今後

を説明した。また、「国内ではこれまで、販売部門が非常に大きなウェイトを占めていて、商品開発部門が必ずしも大きな位置付けではなかった部分もある」と指摘。「今後は、商品開発部門が顧客ニーズを捉え、分かりやすい商品を開発していくことが一層問われる時代となっていくのではなか」と述べた。

講評した永井氏は、前回に比べて多くの企業で改善が見られるとし、「相手の立場に立つて伝えるべき情報の内容や表現、デザインを考えて提

供している」という姿勢が見てとれた」と評価。今春から施行された小学校学習指導要領の狙いを例に、文章とは「確かな事実」と「頑健な論理構成」を基本に、わかりやすい日本語で伝えることだと強調。「UCDAアワードの社会的意義はこのようなコミュニケーションを普及して行くことではないか」と結んだ。

パネルディスカッションでは、評価・選考に当たった小池克弘氏(日本代協認定保険代理士)、佐々牧雄氏(ユーザビリティ・コンサルタント)、指澤竜也氏(ユーザビリティ・エンジニア)、前場保氏(情報デザイン)、萩原忍氏(元財団法人日本消費者協会)、武者廣平氏(ソーシャルデザイナー)の6人がパネリストとなり、ファシリテーターの八杉淳一氏のもと、今回、アワードなど各賞を受賞した企業の帳票やウェブサイトをとり上げながら、今後のコミュニケーションツールの改善に向けたポイントを解説した。

なお、報告会のもようは写真・上は同協会ウェブサイト(<http://www.ucda.jp/jp/award/2011/sokuhou.shtml>)で配信している。

講演で内藤氏は、金融庁がこれまで行ってきた生活者保護に関する検討や取り組みについて、その変遷を紹介。現在はブ

を説明した。また、「国内ではこれまで、販売部門が非常に大きなウェイトを占めていて、商品開発部門が必ずしも大きな位置付けではなかった部分もある」と指摘。「今後は、商品開発部門が顧客ニーズを捉え、分かりやすい商品を開発していくことが一層問われる時代となっていくのではなか」と述べた。

講評した永井氏は、前回に比べて多くの企業で改善が見られるとし、「相手の立場に立つて伝えるべき情報の内容や表現、デザインを考えて提

供している」という姿勢が見てとれた」と評価。今春から施行された小学校学習指導要領の狙いを例に、文章とは「確かな事実」と「頑健な論理構成」を基本に、わかりやすい日本語で伝えることだと強調。「UCDAアワードの社会的意義はこのようなコミュニケーションを普及して行くことではないか」と結んだ。

パネルディスカッションでは、評価・選考に当たった小池克弘氏(日本代協認定保険代理士)、佐々牧雄氏(ユーザビリティ・コンサルタント)、指澤竜也氏(ユーザビリティ・エンジニア)、前場保氏(情報デザイン)、萩原忍氏(元財団法人日本消費者協会)、武者廣平氏(ソーシャルデザイナー)の6人がパネリストとなり、ファシリテーターの八杉淳一氏のもと、今回、アワードなど各賞を受賞した企業の帳票やウェブサイトをとり上げながら、今後のコミュニケーションツールの改善に向けたポイントを解説した。

なお、報告会のもようは写真・上は同協会ウェブサイト(<http://www.ucda.jp/jp/award/2011/sokuhou.shtml>)で配信している。

なお、報告会のもようは写真・上は同協会ウェブサイト(<http://www.ucda.jp/jp/award/2011/sokuhou.shtml>)で配信している。